

産業能率大学通教校友会 新潟支部

会報誌 産能にいがた



第6号

2016年9月発行 文責:新潟支部事務局長 関根芳美 メール:niigata@sanno-uda.jp

TEL0258-83-3048 fax0258-83-3049 社会保険労務士法人せきね事務所内

第3回 支部総会&卒業を祝う会 開催!!

平成28年6月18日、午後1時半より柏崎市高柳の門出かやぶきの里おやけにて、総会を開催しました。議案は異議無く承認され、無事閉会となりました。

記念講演には、高柳の高志の生紙工房代表の小林康生様より「風土の紙を育てる」と題してご講演いただきました。

その後、小林様の案内で、高志の生紙工房見学と紙漉き体験をしました。

工房の方の紙漉きは簡単そうに見えるのですが、実際にやってみると均一に漉くことが出来ず非常に難しいことがわかりました。

翌朝、自分の漉いた和紙を宿に届けていただき、持ち帰ることができました。記念の品となりました。

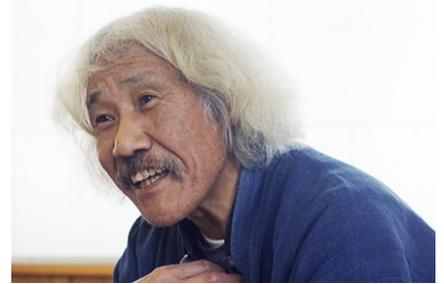


卒業を祝う会 ~ホテル見物・餅つき

その後、じょんのび温泉でサッパリして、午後6時半から「卒業を祝う会」が始まりました。卒業生の棚橋弘美さんを囲み、楽しいひとときを過ごしました。ホテル見物や餅つきもあり最高の夜でした!



柏崎市高柳 越後門出和紙 代表 小林康生氏



20代から地域おこしに深く関わり、都市と農村との交流運動、かやぶき家の修復やその利活用を今日まで続けられています。

清酒「久保田」の和紙ラベルに採用され、その生産が地域雇用を生み出しているそう。

原料の楮こうぞがなりたい紙を育てるため（作るのではなく育てる）、「生紙工房」をオープンさせ、サントリー美術館の壁紙などを手がけ、ブラジル・サンパウロの「ジャパン・ハウス」にも参加。小林さんは、五感を豊かにすることが、未来にも必要と考え、「大地の学校」の構想をカタチにしつつあります。「本物のナチュラルリスト」のお話を聞いた貴重な体験でした。

卒業生の寄稿 「産業能率大学に入学して」 棚橋 弘美



私が産業能率大学に入学したのは、単純に大学で学びたかったからです。社会に出てから、機会があれば大学に入って学びたいと思っていましたが、思うばかりでなかなか入学するキッカケが掴めずにいました。

ある時、理療法士の資格を持っている人と知り合いました。その頃、自分自身ももちろんですが、周りも色々な事で悩んでいる人が多く、大抵の人が抱えている悩みに上手く付き合う事が出来れば、どんなに生きていく事が楽になるだろう。

心理学を学べば答えが見つかるかも知れないと、漠然とっていました。

ですから、心理療法士と聞き、心理学の勉強をするにはどうすればいいのかと、聞いたところ「今から学ぶなら産業能率大学が心理学も学べるし、伝統もあるから安心して学ぶ事ができるよ。」と、教えてくれました。その時、これだ、これしかない！と思い産大の通信に行くことを決めました。



実際に入学してみて大変な事も多々ありました。

勉強が思うように進まず不安だったり、やらなければいけない事だらけだったりでいつも焦る気持ちに支配されていました。

そんな中で、科目試験やスクーリングに出席すると同じように学んでいる人と出会い、お互いの話をする事で励まされたり、励ましたりと、産大で出会った人たちは、私にとってとても大切なものとなりました。

今回、新潟校友会の先輩の皆様から、「卒業を祝う会」を開催していただき、ありがとうございました。思いがけないサプライズを用意してくださり、温かく祝っていただいたことは、忘れられない思い出です。これからもせっかく出会えた縁を大切に、更に学んでいきたいと思っています。

最後に、奥の深い心理学の入口を学んだことで、生きて行くことが楽になったことは確かです。

<会員の皆様へ>

平成28年10月29日（土）午後開催される秋山兼夫先生のミニスクーリングの案内を同封しています。

一見難しそうなテーマですが、実際は楽しい学びの場となるでしょう。奮ってご参加ください！！